

「本戦4日目（11月14日）レポート」



本日の結果は以下の通りです。

【シングルス】

Pierre-Hugues HERBERT(FRA)○7-6(5)/6-4● Enrique LOPEZ-PEREZ(ESP)

Hyeon Chung(KOR) ●6-2/6-3○ Tatsuma ITO(JPN)

Bradley KLAHN(USA) ○6-1/7-5● Di WU(CHN)

Borna CORIC(CRO) ○W.O.● Blaz KAVCIC(SLO)

【ダブルス】

Hsin-Han LEE(TPE) ●6-4/6-3○ Ruben GONZALES(PHI)
Hsien-Yin PENG(TPE) Artem SITAK(NZL)

Toshihide Matsui(JPN) ●6-3/3-6/9-11○ Ti CHEN(TPE)
Danai UDOMCHOKE(THA) Enrique LOPEZ-PEREZ(ESP)

Tatsuma ITO(JPN) ●5-7/6(2)-7○ Sanchai RATIWATANA(THA)
Yasutaka UCHIYAMA(JPN) Sonchat RATIWATANA(THA)

Chase BUCHANAN(USA) ●6-4/5-7/8-10○ Bradley KLAHN(USA)
Blaz ROLA(SLO) Michael VENUS(NZL)

本戦4日目。本日は伊藤竜馬選手、Pierre-Hugues HERBERT選手のシングルス、伊藤竜馬・内山靖崇ペア、松井俊英・ダナイ・ウドムチョクペアのダブルスの試合などが行われた。その中でも圧倒的強さを見せつけ勝利し、観客を惹き付けた試合は先日全日本選手権で悲願の初優勝を果たした伊藤竜馬選手対Hyeon Chung選手の試合である。

Hyeon Chung選手は今年のウィンブルドンジュニアで準優勝し、今大会でも予選決勝で近藤大生選手をフルセットの末に破り、本戦一回戦も危なげなく勝利した韓国期待の若手である。Chung選手は安定した力強いストロークとメンタルの強さを武器としている。相手よりも質の高いストローク自分のペースに引きずり込む粘り強さと共に、相手の攻撃が甘くなった瞬間に攻撃できる力を持っている。

序盤緊張感が高まる中、予選からの疲れなのか、周りからの期待に押しつぶされてしまったのか普段の粘り強さを発揮できないChung選手に対して、ファーストゲームをラブゲームで先取し、その後もいつも通りサーブからフォアの打ち込みを展開する伊藤選手がファーストセットの主導権を握り6-2で奪取した。

セカンドセット、序盤はお互いにサービスキープが続き、相手との手の探り合いとなっていた。そこで試合を動かしたのは、ゲームカウント**3-2**（Chung選手のサービスゲーム）でミスが続いてしまい、いらだちを隠せないChung選手の間につけ込んだ伊藤選手の攻めの姿勢だった。そこで伊藤選手はブレイクに成功しゲームカウント**4-2**とした。しかし、そこで「ここで負けてはいけない」と思ったChung選手の怒濤の反撃によりブレイクバックに成功し、伊藤選手から**4-3**になり形勢を戻した。

ここからが本当の意地と意地のぶつかり合いとなった。しかし、最後まで攻めの姿勢を貫いた伊藤選手がセカンドセットを**6-3**でもぎ取り勝利を収めた。マッチポイントでもしつこいラリーで相手を追い詰め、最後は得意のフォアハンドエースで試合を決めた。

彼の最後まで攻め続ける姿、相手に関係なく自分のプレーを貫く姿は、今後テニスをしていく中でもっとも必要な姿勢だと感じた。

（慶應チャレンジャー広報部門）

ブランドン・クラーン（アメリカ）はスタンフォード大学卒業し、プロ転向2年目の今年は現在まで世界ランクを**101**位まで上げている。『18歳の時はプロ転向する準備ができていなかったが、大学4年間を通して様々な準備ができた。プロ転向直後のUSオープン予選を通過したことは大きな自信になっている。』と話すクラーンは、単複共に危なげない試合運びで準々決勝にコマを進めた。

世界トップ**100**入りした経験のあるウドムチョクは『世界トップ**100**入りする直前が一番タフな時期であった。多くのプレッシャーがあり、それをコントロールすることに葛藤した。』と話している。世界トップ**100**入りが目前のクラーンが慶應チャレンジャーではどのように自らをコントロールするのか、注目したい。

伊藤は韓国期待の若手であるチュンに対して、終始危なげないプレーで圧倒した。一方で、伊藤に対して精神的に引くことなくプレーをしたチュンの将来性も楽しみである。後ろ体重で軸を作りながらフラット気味のライジングが持ち味。18歳にして体幹が強く、確実に世界ランクを上げていくことが予想される。アジアの中で切磋琢磨するライバルとして日本人にとっても良い刺激になるであろう。

明日はシングルス準々決勝。世界トップ100選手であるエブデン、クラウン、クーディネリ、ワン、添田、伊藤に加えて、若手有望のコリッチとハーバートが勝ち残っている。コリッチは今年のUSオープンジュニアチャンピオンであり、すでにデ杯代表入りしてマレーとの対戦も経験している。ハーバートはフランス期待若手で世界ランク162位で急上昇している。共に確実に世界トップ100入りする選手である。非常に高いレベルの試合が予想される。

(トーナメントディレクター 坂井利彰)